

## コミュニティ協議会との意見交換等のまとめ 個表（案）

西久保コミュニティ協議会

### ① 運営の工夫・利用者（住民の満足度）の向上

|                        |   |
|------------------------|---|
| <b>利</b> 用者への配慮と適切な対応  | <p>【現状】 窓口対応に関する取り組みとして、2カ月に1回の頻度で窓口会議を開催している。</p> <p>【工夫している点】 利用者の要望を反映して、休館日を月1日とした。また、利用者の利便性向上のため、電話による仮予約が可能とし、3日以内に窓口で本予約を受け付けている。</p> |
| <b>新</b> しい利用者・利用団体の増加 | <p>【現状】 多摩湖ナイトハイクやこども科学教室など、子ども向けの事業に力をいれていることから、子どもや若年層の利用が多くなっている。また、子育て関係の団体の利用が多いのが特徴である。</p>   |
| <b>施</b> 設の利用方法の工夫     | <p>【現状】 夜間に大声や音の出る活動（演劇等）を行う団体がある。</p> <p>【工夫している点】 時間や活動内容によって合った部屋を案内（例 夜間に大声や音の出る活動は地下の利用や音のセーブを依頼）している。</p>                               |
| <b>情</b> 報の提供          | <p>【現状】 定期的にコミュニティだよりを発行している。</p> <p>【工夫している点】 コミュニティだよりに協議会の主催事業やコミセンの利用案内（部屋ごとの使い方）を毎号掲載し、コミセンの周知をしている。</p>                                 |

## ② 地域におけるネットワーク機能

|  |   |
|--|---|
| <p><b>利</b>用者・利用団体<br/>とコミセンとのつ<br/>ながりづくり</p> | <p>【現状】コミュニティだよりで利用団体の紹介を掲載している。</p>  |
| <p><b>地</b>域とコミセンの<br/>つながりづくり</p>             | <p>【現状】「地元感謝祭」や「ふれあいまつり」などの大規模事業等について地域の様々な団体との共催で実施している。西久保コミセンが拠点となって、さまざまな団体が連携して事業を実施する体制ができている。</p> <p>【工夫している点】共催を実現するための工夫としては、毎年度の期初に、地域の各団体の代表が集まって、各団体の年間スケジュールを共有・調整する話し合いの場を設けている。そこで、イベントが被らないよう調整したり、共催の可能性について議論したりしている。</p> |

## ③ 持続可能な協議会の運営

|                                  |   |
|----------------------------------|---|
| <p><b>運</b>営委員・協力員<br/>の人材充実</p> | <p>【現状】運営委員が高齢化する中で、運営側のマンパワーが手薄になってきている。</p> <p>【工夫している点】運営委員の人数の拡大はすぐにはできないので、近年では事業を実施する際は基本的には他団体との共催事業とし、幅広い主体を巻き込んで事業を実現している。</p> |
| <p><b>持</b>続可能な事業の<br/>実施</p>    | <p>【現状】運営委員の高齢化も進む中で、「多摩湖ナイトハイク」など大規模事業の継続的な実施が体力的に難しくなっている。</p> <p>【工夫している点】現在では亜細亜大学の学生にもボランティアとして参加してもらっている。</p>                     |
| <p><b>活</b>発な協議会運営</p>           | <p>【現状】協議会会則などの見直しを検討している。</p> <p>【工夫している点】役員の選任方法等を検討するにあたり、参考とするため他協議会にアンケートを実施した。</p>  |